

# 映画/批評月間 フランス映画の現在vol.01 ～「リベラシオン」ジュリアン・ジェステールによるセレクション

Mois de la critique  
Nouveaux rendez-vous du cinéma français



ポール・サンチェスが戻ってきた! Paul Sanchez est revenu!



ソフィア・アンティポリス Sophia Antipolis



ワイルド・ボーイズ Les Garçons sauvages



僕らプロヴァンシアル Mes provinciales



オー・パン・クベ Au pain coupé



地上の輝き Le Clair de terre

主催/広島市映像文化ライブラリー 共催/一般社団法人コミュニティシネマセンター 企画協力/アンスティチュ・フランセ日本 助成/アンスティチュ・フランセパリ本部  
フィルム提供及び協力/アンスティチュ・フランセ日本、パシスフェール、カルロッタ・フィルム、エチエ・フィルム、インディセールズ、ロブスター、MK2 特別協力/Bart.lab、ヴェッター公園

## 2020年3月11日(水)～4月4日(土)

アンスティチュ・フランセが、フランスの映画メディア等と協力して最新のフランス映画を紹介する特集「映画/批評月間 フランス映画の現在」。今回は、フランス日刊紙「リベラシオン」のジュリアン・ジェステール氏とともにセレクションしたSF、刑事もの、コメディ、アクション、青春…、新しい世代、あるいはベテランの作家たちが様々なジャンルに果敢に挑んでいるフランス映画の現在が見える作品を上映します。また、近年、再評価の機運が高まっている知られざる映画作家ギィ・ジルの作品を併せて上映します。

※上映作品の紹介は、作品提供先からの情報を基にしています。※当日の上映分数は、ここに掲載したものと多少異なる場合があります。  
※上映開始30分後からの入場はおこわります。



広島市映像文化ライブラリー

広島市中区基町3-1 TEL082-223-3525 <http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou/>

■開館時間:火～土曜日 午前10時～午後8時(日曜日、祝日、8月6日は午後5時まで) ■休館日:月曜日(8月6日と祝日は開館)、祝日の振替日、12月29日～1月4日



# Mois de la critique - Nouveaux rendez-vous du cinéma français

映画/批評月間 フランス映画の現在vol.01～「リベラシオン」ジュリアン・ジェステールによるセレクション

## ◆ベスト・オブ 2018/2019

### 果敢な女性監督たち

■3/11(水) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### ポール・サンチェスが戻ってきた!

Paul Sanchez est revenu!

2018年 101分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/パトリシア・マズィ  
出演/ローラン・ラフィット、ジタ・オンロ、フィリップ・ジラル  
10年前に失踪した凶悪犯罪者・ポール・サンチェスが、プロヴァンス地方のレ・ザルクで目撃されたという噂が広がる。警察署では誰もそのことを本気にしなかったが、若い警官のマリオンは違った…。



このような場所を映画に撮れるのはパトリシア・マズィを置いて他にいないだろう。丘陵、レ・ザルク、谷、国道、まるでラオール・ウォルシュの映画に見られるような広大な世界。ある人物の狂気が拡散していくとともに物語が展開し、やがてその狂気は集団の中へと波及していく。

■3/12(木) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### 20年後の私も美しい

La Belle et la Belle

2018年 95分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ソフィー・フィリエール  
出演/サンドリーヌ・キヘルラン、アガット・ボニゼール、メルヴィル・ブー  
大学生のマルゴは、恋愛についても、将来についても進むべき道が見えず、成り行きに身を任せて日々を生きている。そんなとき、40代半ばの女性マルゴと知り合う。全ての偶然が彼女たちを結び付け、自分たちが一つの人生の異なる年齢を生きる同じ人間である事を知ること…。



■3/13(金) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### マイ・レボリューション

Tout ce qu'il me reste de la révolution

2018年 88分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ジュデス・デビス  
出演/マリク・ジディ、クレア・ドゥマス、メラニー・ベステル  
共産主義の両親に育てられた30代のアンジェルにとって、現代社会は憤りを感じるばかり…。活動家だった父は歳をとり、母は政治思想を捨て田舎へ移住。全てに行き詰ったアンジェルは、久々に母に会いに行くことにする。レオス・カラックスやフィリップ・ガレル作品で有名なミレーユ・ペリエが成熟した女性の魅力を存分に見せている。



### あらたなる風景、若者の現在

■3/18(水) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### ソフィア・アンティポリス

Sophia Antipolis

2018年 98分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ヴィルジル・ヴェルニエ  
出演/ドゥイ・キネツ、ユーグ・ンジバ＝ムクナ、サンドラ・ボワット  
ソフィア・アンティポリス、それは地中海と森と山の間にある不思議な場所。眩いばかりの陽光の下、男も女も生きる意味を、人と人のつながりを、自分たちが属する共同体を探している。そしていつのまにか彼らは失踪した一人の若い女性の運命と交錯していく。



前作『メルキュリアル』にて幻覚にとらわれた郊外の地での漂流を描いた、現在の偉大な政治的映画作家の中でもっともノールなヴェルニエが、コートダジュールの太陽と運れてきた資本主義の凍りつくような炎に焼き尽くされたこの超現実主義的ホラー映画において、さらにその方法論を磨き上げる。そこは南仏でありながら、まったく別の世界のようにも見え、非常に冷たく鋭利なものが燃えるような官能性へと至る。そして超＝現在の強迫観念や孤独にもつく数世紀来の神話、至福千年説の恐怖、中世風の信仰がそこに蔓延っている。現代の不安(混乱)を目くらむほど鮮やかに浮き彫りにする作品。(「リベラシオン」)

■3/19(木) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### ワイルド・ボーイズ

Les Garçons sauvages

2018年 110分 白黒・カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ヘルマン・マンディコ  
出演/ヴィラ・ボンス、ボリーヌ・ロリラル、ティアヌル・ルクセル  
アナエル・スノウ、マチルド・ワルニエ、サム・ルーウィック  
20世紀初頭。良家出身の5人の少年が卑劣な罪を犯してしまう。罪を償うため謎の船長に預けられた少年たちは、過酷な航海の旅へと連行される。密かに反乱を企てる5人だが、ある無人島で座礁し、いつの間にか欲望に溺れていく…。



■3/20(金・祝) ①10:30～ ②14:00～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### 僕らプロヴァンシアル

Mes provinciales

2018年 137分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ジャン＝ポール・シヴェラック  
出演/オンドラニック・マネ、ゴンザグ・ヴァン・ベルヴェセレス  
コランタン・フィラ  
エティエンヌは大学で映画を学ぶため、パリに上京する。そこで映画への情熱を同じくするマティアスとジャン＝ノエルと出会う。しかし年月とともに彼らの抱いていた幻想が徐々に現実化していく…。



シヴェラックは、ブレソン、ロメール、ユスターシュと同じような方法で、アナクロニズムを引き受けている。たとえば現在そのものを言葉の中に詰め込み、それを古くからの思想によってねじ曲げ、時を越えたプロットの中で純化させるように。それは大いに野心的な行いであり、しかも非常に繊細なる簡素さ、清潔なるモノクロ映像によって俳優たちの顔、彼らが発する言葉が見事にとらえられている。

■3/21(土) ①14:00～ ②18:00～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、小・中・高校生無料

#### 宝島

L'île au trésor

2018年 97分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ギヨーム・ブラック  
パリの北西にあるレジャー・アイランドでのひと夏。ある者たちにとっては冒険、誘惑、ちょっとした危険を冒す場所。他の者たちにとっては避難、逃避の場所となっている。世界の喧騒とどこかで響き合いつつ、この場所には有料の海水浴場もあれば、人目につかない片隅、あるいは子どもたちが探求する王国もある。



イルド・フランスのセルジー＝ポントワーズにあるこのレジャー・アイランドは私の子供時代の一部を成しており、今日でもなお思い出すとても鮮明な記憶と結びついています。(ギヨーム・ブラック)

## ◆批評家のドキュメンタリー

■4/1(水) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像

Jean Douchet, l'enfant agité

2017年 85分 カラー Blu-ray 日本語字幕  
監督/ファビアン・アジェージュ、ギヨーム・ナミュール、ヴァンサン・アセール  
ジャン・ドゥーシェは50年以上前から映画批評家として世界中を旅してきた。映画についての伝道師、「渡り守(バサール)」である。その類まれなる知性、教養、ユーモアによって、映画作家や映画ファンたちに影響を与えてきた。三人の仲間たちは彼と出会い、彼の話にすぐさま魅惑され…。2019年11月に惜しまれながら亡くなった映画批評家ジャン・ドゥーシェ氏についてのドキュメンタリー映画。



ジャンは映画の意味を目覚めさせる術を知っている。映画の送ってくる手紙を読み解くように。そして美への思い、配慮する気持ちがジャンをここシネマテークや、他の多くの映画館へと足を運ばせたのです。(アルノー・デブレジャン)

## ◆見出された映画作家ギィ・ジル

■4/2(木) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### 海辺の恋

L'Amour à la mer

1963年 73分 カラー・白黒 Blu-ray 日本語字幕  
監督/ギィ・ジル  
出演/ジュヌヴィエーヴ・テニエ、ダニエル・ムスマン、ギィ・ジル  
シモーヌ・バリ、ジャン＝ピエール・レオ、ジャン＝クロード・ブリアリ  
ジュヌヴィエーヴは恋人の水兵ダニエルとヴァカンスを過ごしたのち、再会することを待ち望みながら、それぞれの生活を送る。ダニエルと同様にアルジェリア戦争から戻ってきた水兵、ギィの感情がふたりのそれと混ざり合っていく。



■4/3(金) ①14:00～ ②18:30～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### オー・パン・クペ

Au pan coupé

1967年 71分 カラー・白黒 Blu-ray 日本語字幕  
監督/ギィ・ジル  
出演/パトリック・ジュアネ、マーシャ・メルル、ベルナルド・ヴェルレ  
ジャンヌはかつての恋人ジャンを思い出し、今も彼との恋を生きている。ジャンは15歳で少年院に入り、既成秩序に反抗し、フルジョフ的な世界もビート族たちの世界も拒否して死んでいった。彼の死を知らないジャンヌには、つねにジャンが亡霊のように寄り添っている。



■4/4(土) ①14:00～ ②18:00～  
鑑賞料/大人380円、シニア(65歳以上)180円、高校生180円、小・中学生無料

#### 地上の輝き

Le Clair de terre

1969年 102分 カラー・白黒 Blu-ray 日本語字幕  
監督/ギィ・ジル  
出演/パトリック・ジュアネ、エドウィージュ・フィエール、アニー・ジラルド  
ミシュリーヌ・ブレール  
チュニジア生まれで、母の死まで幼年期をその地で過ごしたピエールは、現在、パリのマレ地区、ロジエール通りに父親と住んでいる。突如、パリを離れる必要を感じたピエールはチュニジアの首都チュニスに向かう。そこでかつての教師に導かれ、自分の過去の形跡を辿っていくことになる。



#### ギィ・ジル(1938-1996)

1938年、アルジェリアの首都アルジェ生まれ。20歳で処女短編『消された太陽』を監督。1960年、パリへ移住。ピエール・ブロンベルジェの援助により何本か短編を監督、その中の『Au biseau des baisers』を気に入ったジャン＝ピエール・メルヴィルが資金の一部を援助して、初長編である自伝的作品『海辺の恋』を3年がかりで製作。撮影中、ジルの作品、そして彼の人生において重要な存在となるパトリック・ジュアネと出会う。『海辺の恋』は、1964年ロカルノ映画祭で批評家賞を受賞。長編2作目『オー・パン・クペ』(67)は、マルグリット・デュラスから賛辞の言葉を寄せられた。3作目『地上の輝き』(69)はイェール映画祭グランプリ受賞。4作目『反復される不在』(72)はジャン・ヴィゴ賞を受賞した。これら初期4作品は一部の批評家からは評価されたが、興行的にはまったくあたらず、困難な製作状況へ追い込まれる。ようやく発表した『Le Jardin qui bascule』(74)は、ジルにとって特別な存在であった女優ジャンヌ・モローが歌うシーンなど、魅力溢れる作品となっている。一人の男が夜の街を徘徊する『夜のアトリエ』(87)は、ジルにとってかけがえのない存在だったパトリック・ジュアネとの物語に終止符を打つ感動的一作。

## ジュリアン・ジェステール

### 「リベラシオン」文化部長、映画批評家

1986年ストラズブル生まれ。2012年よりフランス日刊紙「リベラシオン」のジャーナリスト、映画批評家として活動。現在は同紙の文化部長を務める。それ以前は人気カルチャー雑誌「レザンロキユプティブル」に執筆、またファッション、メディア業界でグローバルに活躍するマリ＝アメリー・ソーヴェが2017年2月に創刊したラグジュアリーファッション誌「Mastermind」の編集長、『Grazia』フランス版創刊にも携わる。そのほか、ポンピドゥー・センターやシネマテーク・フランセーズでの講演や、セルジュ・ダネーらによって創刊された映画雑誌『トラフィック』、ファッション・カルチャー雑誌『ヴォーグ』、『Acne Paper』、『Vanity Fair』など多種多様な雑誌への寄稿も定期的に行う。フランス、世界各地の映画祭、シネクラブなどでは、日本映画、アメリカのコメディを積極的に紹介、プログラムしている。作曲家でもあり、映画音楽も手がける。